

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波、第5波及び第6波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第6波：令和4年2月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。</p> <p>このモニタリングコメントでは、以下、B.1.1.529 系統のオミクロン株等については「オミクロン株」とする。また、その下位系統として、BA.1 系統、BA.2 系統、BA.3 系統が位置付けられている。</p>
① 新規陽性者数	①-1	<p>都外居住者が自己採取し郵送した検体について、都内医療機関で検査を行った結果、陽性者として、都内保健所へ発生届を提出する例が見られている。</p> <p>これらの陽性者は、東京都の発生者ではないため、新規陽性者数から除いてモニタリングしている（今週3月15日から3月21日まで（以下「今週」という。）は1,598人）。</p> <p>また、新規陽性者数には、同居家族などの感染者の濃厚接触者が有症状となった場合、医師の判断により検査を行わずに、臨床症状で陽性と診断された患者数が含まれている（今週は2,032人）。</p> <p>(1) 新規陽性者数の7日間平均は、前回3月16日時点（以下「前回」という。）の8,093人/日から、3月23日時点で約6,123人/日に減少した。</p> <p>(2) 新規陽性者数の増加比が100%を超えることは感染拡大の指標となり、100%を下回ることは新規陽性者数の減少の指標となる。今回の増加比は約76%となった。</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>【コメント】</p> <p>ア) まん延防止等重点措置が3月21日に解除され、主要駅や繁華街での人の流れのさらなる増加や、オミクロン株 BA.1 系統から BA.2 系統への置き換わりなどによる急激な感染の再拡大に警戒する必要がある。</p> <p>イ) 新規陽性者数の7日間平均は、3月23日時点で6,123人/日と、緩やかな減少傾向にある。また増加比は、前回の約86%から今回は約76%と、6週間連続して100%を下回る水準で推移している。しかし、新規陽性者数は未だ第5波のピーク時(8月19日約4,849人/日)の約1.3倍の数値である。今週の新規陽性者数は、連休中の休診による検査数の減少、検査報告の遅延等の影響を受けた可能性があるため、注意が必要である。</p> <p>ウ) 都では、東京都健康安全研究センターにおいて、民間検査機関と連携して、オミクロン株 BA.2 系統に対応したPCR検査を実施している。オミクロン株 BA.2 系統疑いと判定された件数(BA.2 系統疑い件数/検査実施件数、%)は、3月24日時点の速報値で、3月1日から3月7日の間に46件(46/258、17.8%(%は判定不能を除く))、3月8日から3月14日の間に411件(411/1,067、38.5%(同))であった。オミクロン株 BA.1 系統から BA.2 系統への置き換わりが急速に進んでおり、警戒が必要である。(※東京都健康安全研究センターは検査結果判明日、民間検査機関は検体受付日で計上。追加の報告により、数値は更新される可能性がある。)</p> <p>エ) 国のアドバイザリーボードでは、4月初旬までにオミクロン株 BA.1 系統からより感染性の強い BA.2 系統へ置き換わるとされている。そのため増加比が100%を超えて感染が再拡大することに十分警戒する必要がある。</p> <p>オ) 昨年、年度末前後で新規陽性者数が増加した。歓送迎会、卒業パーティー、お花見等、年度末前後のイベントによる人の移動、接触機会の増加等の影響を受ければ、感染が再拡大する恐れがあり注意が必要である。</p> <p>カ) 感染の機会をあらゆる場面で減らすとともに、換気を励行し、3密(密閉・密集・密接)の回避、人と人の距離の確保、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、手洗いなどの手指衛生、環境の清拭・消毒(テーブルやドアノブ等の消毒によるウイルスの除去等)等、ワクチン接種後も、基本的な感染防止対策を徹底することが重要である。</p> <p>キ) ワクチン接種を検討している未接種の都民に、ワクチン接種は、重症化の予防効果と死亡率の低下が期待されていることを周知し、今からでもワクチンを接種するよう働きかける必要がある。</p> <p>ク) 第5波では、入院患者に占める割合が高かった40代、50代のワクチン接種率の上昇に伴い、新規陽性者</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>数が減少に転じた。3回目のワクチン追加接種は、オミクロン株に対しても効果が期待できることから、希望する都民に対する接種を強力に推進する必要がある。</p> <p>ケ) 東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイト及び国提供資料によると、3月22日時点で、東京都のワクチン接種状況は、1回目、2回目、3回目の順に、全人口では79.0%、78.4%、37.4%、12歳以上では87.1%、86.4%（3回目はデータなし）、65歳以上では92.8%、92.5%、77.4%と3回目が7割を超えている。</p> <p>コ) 都内でも5～11歳のワクチン接種を実施している。小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされている。</p> <p>サ) 都では、小児への接種を検討している保護者向けに、ワクチン接種の概要を分かりやすくまとめたパンフレットを作成し、ホームページに掲載している。</p> <p>シ) 自分や家族が感染者や濃厚接触者となり、外出できなくなる場合を想定して、生活必需品など最低限の準備をしておくことを、都民に呼びかける必要がある。</p>
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満20.7%、10代14.8%、20代15.8%、30代17.5%、40代16.5%、50代8.0%、60代3.0%、70代1.9%、80代1.3%、90歳以上0.5%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 10歳未満の新規陽性者数が高い値で推移し、その割合は4週間連続して全年代の中で最も高くなっており、警戒が必要である。また、5歳未満はワクチン未接種であることから、保育園・幼稚園や学校生活での感染防止対策の徹底が求められる。</p> <p>イ) 若年層及び高齢者層を含めた誰もが、感染者や濃厚接触者になる可能性があることを意識し、自ら身を守る行動を徹底する必要がある。</p>
	①-3 ①-4	<p>(1) 新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、前週（3月8日から3月14日まで（以下「前週」という。）の3,463人から、今週は2,460人に減少し、その割合は4.9%となった。</p> <p>(2) 65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、前回の約439人/日から3月23日時点で約299人/日に減少した。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 重症化リスクの高い65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は減少傾向にあるものの、依然として高い値で</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>推移している。現在、高齢者が入院患者数の約7割を占めており、高齢者の新規陽性者数を注視する必要がある。</p> <p>イ) 医療機関での入院患者や高齢者施設等における入所者も、基本的な感染防止対策を徹底・継続する必要がある。</p>
	<p>①-5 -ア ①-5 -イ</p>	<p>(1) 今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、同居する人からの感染が70.2%と最も多かった。次いで施設（施設とは、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、保育園、学校等の教育施設等」をいう。）及び通所介護の施設での感染が18.8%、職場での感染が4.4%であった。</p> <p>(2) 今週も高齢者施設、教育施設、職場での感染例が多数見られた。また、高齢者施設、医療機関、小中学校、保育園・幼稚園などにおいて、多数の集団発生事例が確認されている。</p> <p>(3) 1月3日から3月13日までに、都に報告があった新規の集団発生事例は、福祉施設（高齢者施設・保育園等）1,001件、学校・教育施設（幼稚園・学校等）332件、医療機関99件であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 少しでも体調に異変を感じる場合は、外出、人との接触、登園・登校・出勤を控え、発熱や咳、痰、倦怠感等の症状がある場合は医療機関を受診するよう周知する必要がある。</p> <p>イ) 今週は、会食による感染が明らかだった新規陽性者数は、215人であった。年度末前後は、友人や同僚等との会食の機会が増加し、新たな感染拡大の契機になる可能性がある。長時間、大人数で会話をすること等により感染リスクが高まることから、会食は、できる限り短時間、少人数とし、会話時はマスクを着用することを繰り返し啓発する必要がある。</p> <p>ウ) 医療機関や高齢者施設等においては、施設内での集団発生も多数確認されており、職員の就業制限等による社会機能の低下が危惧される。また、保育園・幼稚園や小学校等の休園・休校等により、保護者が欠勤せざるを得ないことも社会機能に大きな影響を与えている。施設での集団発生を防止するため、感染防止対策をより一層徹底する必要がある。</p> <p>エ) 都では、高齢者施設等で複数の感染者が発生した際の往診支援、嘱託医等による診療への支援、地区医師会が設置する医療支援チームの往診支援などを行っている。</p> <p>オ) 職場での感染を防止するため、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められる。</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数	①-6	<p>今週の新規陽性者 50,546 人のうち、無症状の陽性者が 3,247 人、割合は前週の 6.3% から 6.4% となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 今週も、症状が出てから検査を受けて陽性と判明した人の割合が高かった。</p> <p>イ) 無症状や症状の乏しい感染者からも、感染が広がっている可能性がある。症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意して、日常生活を過ごす必要がある。</p>
	①-7	<p>今週の保健所別届出数を多い順に見ると、世田谷 4,427 人 (8.8%) と最も多く、次いで多摩府中 3,273 人 (6.5%)、練馬区 2,766 人 (5.5%)、足立 2,692 人 (5.3%)、大田区 2,655 人 (5.3%) であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>保健所では陽性者の状況把握、体調急変時取るべき行動等の情報提供に業務を重点化しており、疫学調査や他の一般業務への影響が発生している。</p>
	①-8 ①-9	<p>今週は、都内保健所のうち約 26% にあたる 8 保健所で、それぞれ 2,000 人を超える新規陽性者数が報告された。</p> <p>【コメント】</p> <p>都は、保健所に人材を派遣して支援している。療養者に対する感染の判明から療養終了までの保健所の一連の業務を、都と保健所が協働し、補完し合いながら一体的に進めていく必要がある。</p>
② #7119 における発熱等相談件数		<p>#7119 の増加は、感染拡大の予兆の指標の 1 つとしてモニタリングしてきた。都が令和 2 年 10 月 30 日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。</p>
	②	<p>(1) #7119 における発熱等相談件数の 7 日間平均は、前回の 84.6 件/日から、3 月 23 日時点で 80.7 件/日と横ばいであった。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均は、前回の約 3,049 件/日から、3 月 23 日時点で約 3,061 件/日と横ばいであった。</p> <p>【コメント】</p> <p>発熱等相談件数の 7 日間平均は、減少傾向にあるものの、引き続き高い値で推移している。引き続き #7119 と発熱相談センターの連携を強化していく必要がある。</p>
		<p>新規陽性者における接触歴等不明者数は、感染の広がりを反映する指標であるだけでなく、接触歴等不明な新規陽性者が、陽性判明前に潜在するクラスターを形成している可能性があるためモニタリングを行っている。</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
③ 新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比	③-1	<p>(1) 接触歴等不明者数は、7日間平均で前回の約4,725人/日から、3月23日時点で3,702人/日に減少した。</p> <p>(2) 今週の接触歴等不明者数の合計は30,040人で、年代別の人数は、10代以下9,740人、20代6,078人、30代5,260人、40代4,499人、50代2,526人、60代964人、70代553人、80代以上420人であった。</p> <p>【コメント】 接触歴等不明者数は、依然として、極めて高い値で推移している。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が必要である。</p>
	③-2	<p>新規陽性者における接触歴等不明者の増加比が100%を超えることは、感染拡大の指標となる。3月23日時点の増加比は、前回の約84%から約78%となった。</p> <p>【コメント】 増加比は、100%を下回って推移しているものの、再び上昇に転じることに厳重な警戒が必要である。感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐため、基本的な感染防止対策を常に徹底することが重要である。</p>
	③-3	<p>(1) 今週の新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合は、前週の約59%から同じく約59%となった。</p> <p>(2) 今週の年代別の接触歴等不明者の割合は、20代で70%を超えている。</p> <p>【コメント】 いつどこで感染したか分からないとする陽性者が、幅広い年代で高い割合となっている。</p>

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
	医療提供体制の分析（オミクロン株対応）	<p>オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析は以下のとおりである。</p> <p>(1) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、3月16日時点の20.4%（164人/804床）から、3月23日時点で16.0%（129人/804床）となった。</p> <p>(2) 入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、3月16日時点の23.7%から、3月23日時点で23.8%となった。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症のために確保した病床使用率は、3月16日時点の37.5%（2,709人/7,229床）から、3月23日時点で30.0%（2,169人/7,229床）となった。</p> <p>(4) 救命救急センター内の重症者用病床使用率は、3月16日時点の77.2%（465人/602床）から、3月23日時点で75.3%（464人/616床）となった。</p> <p>(5) 救急医療の東京ルールの適用件数については、136.4件/日と、高い水準で推移している。</p> <p>【コメント】</p> <p>「オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率」は低下、「入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合」は横ばいであった。引き続き動向を注視する必要がある。</p>
④ 検査の陽性率（PCR・抗原）	④	<p>PCR検査・抗原検査（以下「PCR検査等」という。）の陽性率は、検査体制の指標としてモニタリングしている。迅速かつ広くPCR検査等を実施することは、感染拡大防止と重症化予防の双方に効果的と考える。</p> <p>濃厚接触者で、医師の判断により検査を行わずに、臨床症状で陽性と診断された患者2,032人は、陽性率の計算に含まれていない。</p> <p>7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の31.4%から3月23日時点で29.5%となった。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約15,034人/日から、3月23日時点で約12,105人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 陽性率は、3月23日時点で29.5%となった。臨床症状のみで陽性と診断された患者や、民間検査センターや検査キットで自ら検査した患者の存在が、陽性率に影響を与える可能性がある。無症状や軽症で検査未実施の感染者が多数潜在している状況が危惧される。</p> <p>イ) 自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合や、ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、倦怠感等の症</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
		<p>状がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センター又は診療・検査医療機関に電話相談し、特に、症状が重い場合や、急変時には速やかに医療機関を受診する必要がある。</p>
⑤ 救急医療の東京ルールの適用件数	⑤	<p>東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の154.1件/日から3月23日時点で136.4件/日に減少した。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 東京ルールの適用件数は減少傾向にあるが、高い値で推移しており、救急医療体制が未だ大きく影響を受けている。</p> <p>イ) 救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、過去に比べて大幅に延伸したまま推移している。</p>
⑥ 入院患者数	⑥-1	<p>(1) 入院患者数は、前回の2,817人から、3月23日時点で2,258人に減少した。</p> <p>(2) 今週、新たに入院した患者は1,311人であった。</p> <p>(3) 陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な疑い患者について、都内全域で約170人/日を受け入れている。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新型コロナウイルス感染症のために確保した病床の使用率は、3月16日時点の37.5% (2,709人/7,229床) から、3月23日時点で30.0% (2,169人/7,229床) となった。入院患者数及び重症患者数は減少傾向にあるものの、それらに占める高齢者の割合は未だ高い値である。</p> <p>イ) 都は病床確保レベル3 (7,229床) を各医療機関に要請しており、3月24日時点での確保病床数は6,922床である。都は、救命救急センターに対し、通常医療の患者受入体制を強化するよう依頼した。</p> <p>ウ) 都では、入院重点医療機関、高齢者施設等におけるスクリーニング検査の実施、往診等による中和抗体薬及び抗ウイルス薬投与の体制を整備しており、国によるこれらの薬剤やワクチンの確保、安定的な供給が求められる。</p> <p>エ) 現在、入院調整本部への調整依頼件数は、3月23日時点で58件となった。透析、介護を必要とする者等、入院調整が難航する事例も引き続き発生している。また、多くの転院依頼を受けている。入院調整本部では、重症用病床の一元管理を行うほか、転院支援班、入院調整（軽症）班、保健所支援班、往診支援班などを設置した。</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
⑥ 入院患者数	⑥-2	<p>3月23日時点で、入院患者の年代別割合は、80代が最も多く全体の約28%を占め、次いで70代が約21%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 60代以上の割合が約72%と、高齢者の入院患者数及びその割合が高い値で推移しており、医療機関では多くの人手を要している。高齢者層の重症患者数も多く、その動向を注視する必要がある。</p> <p>イ) 都は、小児医療体制の確保や、分娩取扱い医療機関の連携による診療体制の確保に向け、意見交換会の実施や、MIST（東京都新型コロナウイルス感染者情報システム）の活用による情報の共有化を進めている。</p>
	⑥-3 ⑥-4	<p>検査陽性者の全療養者数は、前回の119,110人から3月23日時点で94,913人となった。内訳は、入院患者2,258人（前回は2,817人）、宿泊療養者2,489人（同3,104人）、自宅療養者47,238人（同59,628人）、入院・療養等調整中42,928人（同53,561人）であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 全療養者に占める入院患者の割合は約2%、宿泊療養者の割合も約3%であった。自宅療養者と入院・療養等調整中の感染者が約95%と大多数を占めている。</p> <p>イ) 都は、33か所（受入可能数8,850室）の宿泊療養施設を確保し、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て運営している。</p> <p>ウ) 都は、病床を有効活用するため、新型コロナウイルス感染症の治療が終了した高齢者について、療養病床への転院を更に促進することとした。</p> <p>エ) 受診・検査が必要な方を迅速な診療・検査体制につなげる必要があり、都は、都内約4,200か所全ての診療・検査医療機関をホームページで公表している。</p> <p>オ) 都はこれまで、約310,000台のパルスオキシメータを確保し、区市保健所へ約69,710台配付するとともに、東京都医師会へも20,000台貸与している。</p>
		<p>東京都は、その時点で、人工呼吸器又はECMOを使用している患者数を重症患者数とし、医療提供体制の指標としてモニタリングしている。</p> <p>東京都は、人工呼吸器又はECMOによる治療が可能な重症用病床を確保している。</p> <p>重症用病床は、重症患者及び集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者（人工呼吸器又はECMO</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
⑦ 重症患者数		<p>の治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者、及び離脱後の不安定な状態の患者等)の一部が使用する病床である。</p> <p>人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合の算出方法：1月4日から3月21日までの11週間に、新たに人工呼吸器又はECMOを使用した患者数と、1月4日から3月14日までの10週間の新規陽性者数をもとに、その割合を計算（感染してから重症化するまでの期間を考慮し、新規陽性者数を1週間分減じて計算している。）</p>
	⑦-1	<p>(1) 重症患者数は、前回の54人から3月23日時点で44人に減少した。</p> <p>(2) 今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は18人（前週は34人）、人工呼吸器から離脱した患者は29人（同33人）、人工呼吸器使用中に死亡した患者は13人（同10人）であった。</p> <p>(3) 今週、新たにECMOを導入した患者は1人、ECMOから離脱した患者は2人であった。3月23日時点において、重症患者のうちECMOを使用している患者は3人であった。</p> <p>(4) 3月23日時点で重症患者に準ずる患者は、人工呼吸器等による治療を要する可能性の高い患者等93人（ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者59人を含む）（前回は125人）、離脱後の不安定な患者は28人(同31人)であった。</p> <p>(5) 今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は6.5日、平均値は7.7日であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 3月23日時点で、重症患者数は44人と減少傾向にある。重症患者に準ずる患者は121人と高い値で推移している。挿管期間が14日以上に及ぶ重症患者が全体の約55%を占めており、依然として医療提供体制を圧迫している。たとえ肺炎は軽症であっても、併存する他の疾患のため集中治療を要する患者が存在しており、オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率の推移を注視する必要がある。</p> <p>イ) 中等症患者の中から一定割合で重症患者が発生しているため、中等症患者数の把握が重要である。</p>
	⑦-2	<p>(1) 3月23日時点の重症患者数は44人で、年代別内訳は10歳未満が3人、20代が1人、30代が2人、40代が3人、50代が4人、60代が7人、70代が19人、80代5人である。性別では、男性32人、女性12人であった。</p> <p>(2)年代別の人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合は、10歳未満が0.01%、10代が0.00%、20代が0.00%、30代が0.01%、40代が0.02%、50代が0.05%、60代が0.20%、70代が0.51%、80代が0.51%、90歳以上が0.16%であった。</p>

モニタリング項目	グラフ	3月24日 第84回モニタリング会議のコメント
⑦ 重症患者数		<p>【コメント】</p> <p>ア) 人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合は、50 代以下の 0.01%と比較して、60 代は 0.20%と高く、70 代以上では 0.46%とさらに高くなる。</p> <p>イ) 3月23日時点で、重症患者 44 人のうち 60 代以上が 31 人と約 70%を占めている。高齢者の新規陽性者数及び重症患者数の増加に警戒する必要がある。</p> <p>ウ) あらゆる年代が、感染により、併存する他の疾患が悪化するリスクを有していることを啓発する必要がある。</p> <p>エ) 今週報告された死亡者数は 106 人（20 代 1 人、30 代 1 人、40 代 1 人、50 代 4 人、60 代 8 人、70 代 21 人、80 代 36 人、90 代 31 人、100 歳以上 3 人）であった。3月23日時点で累計の死亡者数は 4,087 人となった。</p>
	⑦-3	<p>今週新たに人工呼吸器を装着した患者は 18 人であり、新規重症患者（人工呼吸器装着）数の 7 日間平均は、前回の 4.0 人/日から 3月23日時点で 2.7 人/日に減少した。</p>